

八戸で学校法人光星学院創立60周年イベント

秋山、塩見、北條が参加

市内の児童60人に野球指導

一流の技披露し激励

学校法人光星学院は11日、創立60周年を記念したイベント「八戸学院出身プロ野球選手とふれあう会」を開催した。八戸大(当時)出身の秋山翔吾外野手(西武)と塩見貴洋投手(楽天)、八戸光星高出身の北條史也内野手(阪神)が参加。同市美保野の八戸学院室内練習場で、八戸市内の児童約60人を指導した。全員で準備運動をした後、投手は塩見、野手は秋山、北條のグループに分かれて練習。

投手はスピードガンで球速を測り、野手はティーバッティングに取り組んだ。塩見が投げた秋山、北條が打撃を披露すると、切れるボールや鋭い打球に歓声が上がった。練習後は選手のサイン入りグラブやTシャツなどをプレゼントする抽選会があり、当たった子どもたちは大喜び。サイン会には長蛇の列ができた。講師では、選手が「頑張っ

てプロ選手を目指してほしい」と話していた。

北條は「来年は弘前でも試合があるので、会場へ来てほしい」と激励した。塩見は「教えるのが分かっていなかったかもしれないけれど、触れ合えて楽しかった」と話した。秋山は「来年は弘前でも試合があるので、会場へ来てほしい」と話した。塩見は「教えるのが分かっていなかったかもしれないけれど、触れ合えて楽しかった」と話した。

(林泰輔)

3選手さらなる飛躍誓う

塩見「一軍で活躍し続ける」
秋山「求められる役果たす」

八戸大(現八戸学院大)の硬式野球部からプロ入りした秋山翔吾外野手と塩見貴洋投手、光星高出身の北條史也内野手が11日、八戸学院室内練習場で開かれたイベントで子どもたちと触れ合った。同じバ・リーグの野手と投手で、対戦することも多い秋山と塩見は「絶対に負けたくない」と口をそろえ、「お互いの活躍は刺激になる。来季も負けずに頑張りたい」と意気込んだ。今季1軍で活躍した北條も「使ってくれる卒本

北條「全試合出場し結果を」

方として活躍。力強い打撃で2011年夏、12年春、夏の甲子園3季連続優勝に貢献した。八戸で名を上げてプロ選手となった3人。秋山は2015年にシモン最多打記録を更新する偉業を成し遂げ、今季も全試合に出場し2年連続3度目のゴールデングラブ賞を受賞した。一方の塩見も貴重な左腕として、今季は先発ローテーションを1年間守り抜いた。北條も4年目の今季、主力選手との厳しいレギュラー争いの中で122試合に出場し、2割7分以上の打率を残した。

3人はさらなる高みを見据える。打った上で、時には相手に球数を多く投げさせて特徴をチームメイトに伝えるなど、求められる役割を果たしたい」と秋山が強い責任感をにじませれば、塩見も「来季以降も2、3、4年と続けて1軍で活躍し続けることが大切。混戦のパ・リーグで上位に入るため、チームの力になりたい」と意欲。北條は「監督やコーチの指導を生かし、全試合に出場できれば結果はついて来る」と闘志を燃やした。

11日、師走の東北の寒さに3人は「よこんな中で野球をやっていたな」と笑いながら、元気にバットを振って白球を追い掛け、憧れのまなこを向ける八戸の子子どもたちに「僕たちも頑張るので、皆さんも頑張ってプロ選手になってください」とエールを送った。

(林泰輔)